

指定管理者の期末モニタリング

施設名	宮代町立コミュニティセンター進修館及びスキップ広場	年度	令和3年度
指定管理者	NPO法人 MCAサポートセンター	担当課	町民生活課
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	期別	第3期
施設の目的	<p>進修館は、市民活動や地域活動支援の拠点として、様々なジャンルのコミュニティ活動を通じ、町民の交流とコミュニティの増進を図り、自治と連携のまちづくりを推進することを目的とする。</p> <p>また、スキップ広場は地域住民の憩いと活動の場を提供することによって、宮代らしい賑わいと魅力を創出し、もって地域の活性化を図ることを目的とする。</p>		
業務の内容	<p>(1) 施設の運営に関すること。</p> <p>(2) 施設、設備及び物品の維持管理に関すること。</p> <p>(3) 施設の利用許可、変更及び利用の取消し、制限等に関すること。</p> <p>(4) 施設の利用料金の收受、免除及び返還等に関すること。</p> <p>(5) 市民活動の支援に関すること。</p> <p>(6) 施設の設置目的にあった自主事業の実施に関すること。</p> <p>(7) その他施設の目的を達成するために必要なこと。</p>		

総合的な評価	
【総合評価】	A優良0 B適正14 C改善0
<p>当該施設は市民活動を支援する拠点施設として、適正に管理運営されていた。</p> <p>事業計画書に基づき、地元大学や市民団体と協力することで様々な事業を実施し、市民活動の活性化を図るとともに新たな利用者の発掘などもコロナ禍で実施していた。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらずに長引いたため事業計画を再考する必要がある場合については、遅れることなく町へ報告、相談するなど、連絡調整も適切に対応していた。</p> <p>町との共催事業の宮代町民まつり展、進修館オープンカレッジについては、事前調整会議により役割分担を明確にして実施したことで、適切に事業運営ができた。</p>	
【評価事項】	<p>新型コロナウイルス感染症関連の利用制限等により、不測の事態が発生したものの町との協議の上、臨機応変に対応し、利用者の理解を得ながら大きな混乱も無く適切に管理していた。</p> <p>コロナ禍による新たな生活様式を踏まえた事業実施や施設の利便性向上など、先を見据えた管理運営を実施していた。</p>
【改善事項】	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、更に創意工夫のもと、新たな事業展開を期待する。</p>

1. 施設の管理運営・事業	評価	B 適正
<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置や大ホールがワクチン接種会場となる影響の中、仕様書・事業計画書に基づき適切に管理運営業務を実施していた。</p> <p>令和3年度 進修館及びスキップ広場利用者数 66,495人(前年27,708人)前年比+38,787人(コロナ禍)</p>		
2. 利用者の公平確保	評価	B 適正
<p>施設の貸出及び利用料金の徴収、免除申請等は条例及び施行規則に基づき、公平かつ適正に行われていた。</p>		
3. 職員の配置、研修等	評価	B 適正
<p>事業計画書に基づき適正な人員配置及び専門スタッフを配置し、事業を行っていた。また、新人研修等及びスタッフ会議を実施し、スタッフのスキルアップとスタッフ内部での情報共有化に取り組みサービス向上に努めていた。</p>		
4. 施設の維持管理業務(清掃、植栽管理など)及び保守点検	評価	B 適正
<p>施設管理部門の施設長のマネジメントにより、清掃及び施設点検を事業計画書に基づき適切に実施し、機能・安全面を確認する等、施設の維持管理業務は適正に行われた。また、利用者に対する配慮にも迅速に対応していた。</p>		

5. 施設の修繕	評価	B 適正
<p>利用料金収入の増額により、町と協議の上、利用者ニーズを踏まえた施設修繕を実施していた。また、日常の巡回・点検を行うことにより、軽微な修繕などは速やかに対応、緊急対応を含め利用に対して支障なく対応をしていた。</p>		
6. 備品管理	評価	B 適正
<p>利用料金収入の増額により、町と協議の上、適切に備品の購入や補充を行っていた。また、備品管理台帳において備品の増減等、適切に管理していた。</p>		
7. 安全・危機管理	評価	B 適正
<p>緊急対策マニュアルに基づき、管理責任者を中心に災害発生時の避難訓練などを行うなど、安全の確保のための避難経路の確認や危機管理に対するスタッフ研修を実施していた。</p>		
8. 個人情報の管理	評価	B 適正
<p>町個人情報保護条例及び施行規則に準じたマニュアルを整備するとともに、スタッフ会議及び研修を実施し、個人情報の管理を徹底していた。</p>		
9. 利用者ニーズの把握・反映	評価	B 適正
<p>進修館だよりの発行をきっかけにアウトリーチとして自治会や町内外の事業者への訪問活動を実施していた。また、利用者懇談会を開催し、進修館の運営について意見交換を行い、利用者ニーズの把握に努めていた。</p>		
10. 自主事業の実施	評価	B 適正
<p>事業計画書に基づく事業のほか、コロナ禍で実施できる自主事業を展開していた。 施設利用者に対しては、全館でWi-Fiが利用できるようにし、2階ロビーではFree Wi-Fi環境を整備した。また、ホール利用サポートサービスを立ち上げ、ホール利用者のニーズに対応していた。 2階ロビーの一部を「みんなの広場」と位置づけ、インフォメーション窓口を設置し、スタッフが常駐することで、日常の来館者と直接会話し、そのニーズに併せて、施設案内や町に関する資料の提供などを実施していた。また、同所を「市民活動サポートセンター」として新たに市民活動サポートセンター登録制度を発足した。 アーカイブ事業では、進修館に保管されている図面のリスト作成や広報みやしろにおける進修館に関する記事、町民まつり展を通じて収集した資料等をデジタルアーカイブ化していた。 昨年に引き続き「進修館だよりの」定期発行により「進修館百貨店」の掲載も増え、紙面を増やすなどの工夫により、発行数も伸びており、自治会への配布数も伸びている状況が見えた。 「進修館ファンクラブ」では、「進修館のこれからを考えるシンポジウム」をオンラインと会場参加型の併用開催で実施し、52名の参加があった。 町との共催で「宮代町民まつり展」を開催し、関係者へのインタビュー動画の制作や会場展示など日本工業大学とも連携して盛況のもと開催した。 第5次宮代町総合計画前期実行計画事業「進修館オープンカレッジ」の実施に向けて、町と企画調整会議を実施した。開催する段階で新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の発令により、延期となったものの期間をずらして3月からの開催となった。</p>		
11. 経費節減	評価	B 適正
<p>清掃等は再委託せず、清掃スタッフにより業務を実施することでコストの削減に努めていた。 また、施設設備の応急修繕について、専任サポートスタッフ等が実施することにより、コスト軽減を図っていた。</p>		
12. 環境への配慮	評価	B 適正
<p>館内の照明機器のLED化や環境に配慮した物品購入を実施していた。</p>		
13. 利用者への情報提供	評価	B 適正
<p>twitterやFacebookなどSNSを活用した情報発信により、施設のPRや利用促進を図っていた。また、施設貸出業務のシステム化により、ホームページ上での予約情報の更新頻度が上がり、利用者サービスの向上が図られていた。</p>		
14. 会計管理	評価	B 適正
<p>経理担当スタッフを配置し、指定管理業務経費及びその他の経費、団体運営経費を区分して適正に管理していた。</p>		